

自社栽培の月桃と知財で新事業を開拓 知財を高い品質の証拠として積極的な営業活動へ

事業内容

2009年設立
月桃を用いた化粧品の製造・販売

知的財産権と内容

特許第4960947号	ハーブ等植物の精油抽出方法及びにハーブ等植物の蒸留液製品
特許第5971831号	月桃成分の発酵方法
商標第4859224号	きあら／姫阿楽
商標第6048594号	CHIARA ORGANICS
商標第6334220号	kiara、きあら

他 商標権1件

(2025年2月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



左:工場長 山川清安さん
右:代表取締役 山川美代子さん

養豚業の悩みを解決する発明が 月桃の画期的な抽出装置に

当社は2009年に設立。沖縄県大宜味村にある自社の有機農場で栽培した月桃を、独自技術で抽出・加工した化粧品などの製造販売を行っている。山川美代子代表が営業活動を、山川清安工場長が開発を主に担当し、夫婦二人三脚で事業を成長させてきた。当初は養豚事業を営んでおり、山川工場長が自動給餌機の修理を契機にアイデアを得て、固形物と液体を分離する装置『固液分離装置』の開発を行った。装置は付近の養豚事業者からも購入されたが、「この装置を活用して一般消費者向けの商品を作れないか」と考え、沖縄で古くから親しまれている月桃に着目。月桃は、温暖な地域に群生する植物で、葉だけでなく花や種子それぞれに、高い抗酸化作用や抗菌・消臭作用のある有効成分が含まれている。「開発した固液分離装置を改良して、月桃の成分を余すことなく抽出できるようになった。他にはない高純度な抽出方法だ」と山川工場長が語るように、月桃化粧品の業界には後発ながら、品質の高い当社製品は多くの顧客に愛されている。

知財取得のきっかけはテレビの発明番組 当初は事業化できず苦い経験も

装置を開発した山川工場長は「初めから特許を意識して開発したわけではなく、現場の困りごとを解決する過程で、『これは新しい技術かもしれない』と気づい

たのがきっかけ」と語る。加えてちょうどその頃テレビで放送されていた発明に関する番組がきっかけで特許に興味を持ち、弁理士が主催する研修会に参加するようになった。最初は書類の作り方や用語も分からなかったが、弁理士や商工会議所、特許事務所等の助けを得ながら、特許の取得まで辿り着いた。一見すると順調のように思えるが、当社は過去に特許を取得したものの、うまく事業化できなかった苦い経験もある。まだ養豚事業を営んでいた際に、豚用の折れにくい注射針を開発し、特許を取得した。しかし、これは動物用医薬品に該当するため当社では取り扱いができず、販売を断念せざるを得なかった。「最初は申請にかかった費用が負担だと思っていた。それでも知財によって差別化の実現や、当社技術の信頼度を向上できたことが、今考えてみれば大きなメリットだった」と山川工場長は当時を振り返る。

月桃の化粧品事業に本格参入 特許技術で注目を浴びる

当社は固液分離装置、植物の搾汁方法、蒸留液等の特許を取得した後、ついに月桃を用いた化粧品の製造・販売を本格的に開始した。その際、特許技術という肩書きは、メディアやイベントでも興味を引く要素となったそうだ。「実演販売を行った際も、特許を持っていると『これはどんな技術なのか?』と声をかけられることが増えた」と山川代表。さらに、「月桃の効

果を研究している大学や研究機関からの問い合わせが増える、行政からの支援を受けやすくなる等、知財の信頼性の高さを感じた」と話す。当社はこれまで沖縄県産業振興公社の補助金を活用して月桃の効果に関するエビデンス取得や研究開発を行うなど、知財をもとにさらなる事業拡大を図っている。

技術漏えいなどのトラブルも発生 知財の重要性を再認識



商品が有名になるにつれて、情報漏えいや模倣といったトラブルにも直面した。当社の月桃エキスをういた石けんの開発を依頼していた取引先が、その商品を無許可で販売していたという事態が発生。相手には警告を行い、和解したものの、これが「情報や技術の漏えいは今後も起こり得る」と考えるきっかけとなり、弁理士と相談しながら、特許として申請する範囲と、企業秘密とする範囲をしっかりと設定するなど、独自技術の保護を徹底するようになった。それ以降も、月桃商品を扱う他社によ

る模倣被害に見舞われることがあったが、山川工場長は「技術的に当社と同じものは作れない。相手との話し合いも、こちらが知財を取得していたことで、すぐに解決することができた」と語った。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「悩みや課題こそが将来の宝になる。現場で直面する問題に、諦めず取り組み続けることが、革新的な発明につながるはずだ」と山川工場長は語る。また、知財の取得がブランド価値の向上にも大きく寄与し、当社の製品は数多くのリピーターを抱えるようになった。

「今後は、大宜味村にある当社の月桃農場を、農業体験や観光などを行う体験型施設にすることで、エコツーリズムを推進したい。お客様にも貴重な体験を提供し、地域社会の活性化にもつなげたい」と山川代表は今後の事業展望を語った。当社は今後も知財を活用して月桃と沖縄の魅力を広めていく。



特許製法が実現した純度100%の月桃ローションが当社の主力商品



大宜味村にある当社の工場と月桃畑で、今後は体験型施設とすることを企画している



知的財産活用のポイント

養豚事業から化粧品事業へ 家族と知財の力でさらなる成長を目指す

従前の開発装置の応用により、養豚業界から化粧品業界へ飛び込んだ当社。全く異なる分野への新規参入を後押ししたのがまさに知財である。月桃の可能性を信じて技術開発を行い、労を惜しまずに全国で製品の良さを伝え続けた。

「まさか養豚場が化粧品を作るなんて」と周囲から驚かれたこともあるというが、沖縄県が主催する九州地方発明表彰で沖縄県発明協会会長賞を受賞するなど、たしかな実績とともにそのような声も払拭してきた。知財の取得により独自性と優位性を確立したことで、全国に多くのリピーターを抱える月桃化粧品企業へと変貌を遂げた。

COMPANY DATA

取材：2025年2月

企業名：株式会社丸海きあら 所在地：沖縄県国頭郡大宜味村字押川640-126 電話番号：0980-44-2966

URL：<https://www.kiara-web.com/> 創業：2009年 資本金：400万円 従業員：5名

